



西尾いきものふれあいの里だより

5月号

2023.5.1 発行

さとやま

5月の里といきもの



上の写真は、ゴールデンウィーク頃の小草池です。以前里ではフジの花が見頃でしたが、最近では4月中・下旬頃にずれてきています。徐々に温暖化の影響が進んでいることが実感されます。新緑が美しい季節ですが、写真右側などでは、枯葉色の部分が見られます。

モウソウチク

写真の場所は、タケの仲間の林です。タケの仲間は地下茎でつながっていて、春の筍（たけのこ）に栄養分を費した後、葉が紅葉して枯れ、落ちてしまいます。これを「竹の秋」と呼んで、春の季語になります。

食用にする筍には60個ほどの節がありますが、成長した竹にはいくつあるでしょう。実は筍のときと同じ数しかありません。その節1つ1つが1日に数cm伸びるため、驚異的に成長します。その栄養分を補給するので、消耗も激しいのです。逆に秋は筍も大きく成長し、親の竹も葉を回復して、「竹の春」という秋の季語になります。

里で一番多い種類はモウソウチクです。もともと大陸由来の外来種で、加工しやすく、筍が肉厚なので、特に江戸時代半ばごろから積極的に移入されました。繁殖力が高く、地下茎を伸ばして他の樹木を枯死させて広がるため、適切に管理されないこの頃では、繁茂が問題になっています。



ニワゼキショウ

ビオトープ付近では、ムラサキサギゴケが次第に姿を消し、代わってニワゼキショウやセッカニワゼキショウが群生します。アヤメ科に分類される1年草で、北アメリカ原産です。白～紫の様々な色のものが見られます。



エゴノキ

ハンノキ広場では、エゴノキのかわいい釣り鐘型の花が咲きます。エゴノキ科の常緑樹で日当たりのよいところを好むため、雑木林の端や、谷間などに見られます。庭木としても利用されています。枝先に1～6個の花がつきます。下向きにつくため、ハエやアブなどの脚の弱い虫はとまることができず、主にハナバチの仲間が受粉するそうです。

実がサポニンを多く含んでいて、口にするとえぐみがあるためエゴノキと名がつけました。サポニンは界面活性作用があるので、若い実をつぶして上澄み液をとり、石鹼の代わりにすることができるのだそうです。



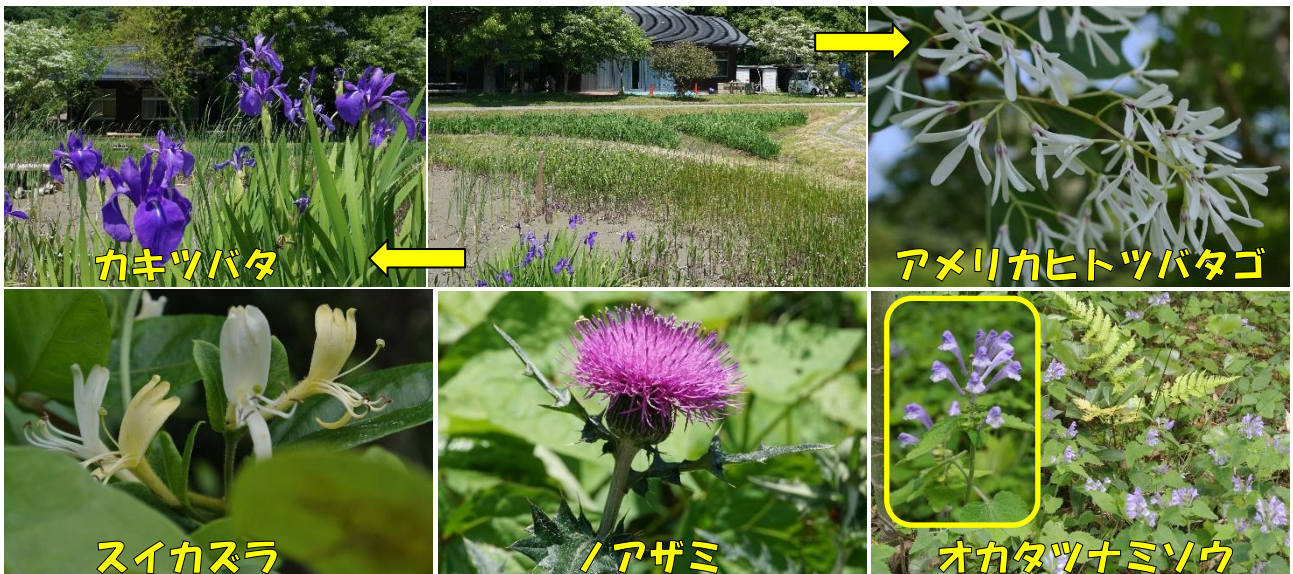
木をよく見ると、葉がきれいに巻かれてぶら下がっているのを見つけることがあります。これは、エゴノツルクビオトシブミという昆虫のゆりかごで、中には卵が産みつけられていて、幼虫は巻かれた葉を食べて育ちます。

また、花が終わる頃、猫の指のような、バナナの房のような形のものができることがあります。「エゴノネコアシフシ」と呼ばれるものです。これは虫こぶで、中にはたくさんのエゴノネコアシアブラムシがいます。樹液を吸う刺激でこのような形になるのだそうです。

こんな昆虫たちとエゴノキの関係を観察してみてください。

4月はこんな生きものも見られます

菖蒲園では、ハナショウブより一足早く、**カキツバタ**の花が咲きます。センター前では、白い**アメリカヒトツバタゴ**の花が、なぜか東側の木から咲いていきます。



里の木々に絡んで芳香を放って咲く**スイカズラ**の花は、咲き始めは白く後に黄色になるので、別名「金銀花」と呼ばれます。センターゾーンのあちこちでは、**ノアザミ**の花が咲きます。トンボの里では、波のように咲く**オカタツナミソウ**の花が見られます。

センターゾーンからサブゾーンの林では、プロペラのような形の白い**テイカカズラ**の花がたくさん咲きます。万灯山へ向かう道では、足元に大きな**キリ**の花が落ちていることがあります。見上げると、高い梢で咲いているのを見つけることができます。野鳥の森では、**ササユリ**が清楚な姿を見せます。葉や茎が笹に似ていて、花粉が赤色であることで他のユリと見分けることができます。



また、ときどき足元にツルアリドオシの花が二つ連なって咲いているのを見つけることがあります。秋に2つの花で1つの実をつけるので、花の跡が2つ付きます。万灯山山頂では、ソクシンランの長い花穂に花が付きまます。山道で翅に3本線がある蝶、**コミスジ**に出逢うこともあります。

少し汗ばむ季節、新緑の中こんな生き物たちを探して、里を散策してみてください。

4月の行事紹介



「親子でタケノコ掘りを体験しよう」を4月2日（日）と9日（日）に開催しました。この講座は、旬のタケノコを参加者で分けて持ち帰れる好評な講座で、昨年よりタケノコの収穫量は少なかったが、楽しく収穫作業や竹林の管理などを学ぶことができました。

竹林まで行く里山の道中には、かわいらしい草花やカエルなどの生き物も見ることができ、春の里山の自然を満喫し満足していただいたようです。

5月の行事予定

7日（日）	野鳥のさえずりを聞いてみよう	20名	AM9:30～11:30	高田俊洋
-------	----------------	-----	--------------	------

内容 ～ 春の里山で野鳥を観察します。南から渡ってきた夏の小鳥のさえずりをみなさんで聞いてみましょう。美しい姿も観察できるかもしれません。

21日（日）	棚田でお米を作ろうⅠ（田植え） ※注1【予備日：5/28】	60名	AM9:30～11:30	当園職員
--------	----------------------------------	-----	--------------	------

内容 ～ 「自分たちが食べるお米が、どうやってできるのか、親子で体験！」里山の棚田で稲の苗を手で植えます。棚田での作業は、苦勞の多い作業ですが「きっと、おいしいお米ができます！」
「※注1」 棚田でお米を作ろうⅠ～Ⅲの講座は原則3回の講座のため、少なくとも2回以上受講した方に限り、参加特典として「お米」をプレゼントします。

6月の行事予定

4日（日）	お花で冠・葉っぱでお雛様を作ろう	20名	AM9:30～11:30	河江喜久代
-------	------------------	-----	--------------	-------

内容 ～ シロツメクサ、タンポポなどでプレスレットや冠を、クズの葉とシロツメクサでお雛様を作ります。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候や新型コロナウイルス感染症の拡大防止**のため、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28～1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課